



(C) WPI / DERWENT

AN - 2002-356138 [39]

AP - JP20000220669 20000721

CPY - KAOS

DC - D21

FS - CPI

IC - A61K7/075

MC - D08-B03 D08-B04

PA - (KAOS) KAO CORP

PN - JP2002029940 A 20020129 DW200239 A61K7/075 003pp

PR - JP20000220669 20000721

XA - C2002-101297

XIC - A61K-007/075

AB - JP2002029940 NOVELTY - Hair cosmetics contain aromatic alcohol, anionic surfactant, higher alcohol, and an oil substance in the form of liquid or paste at 25 deg. C, as active components. The cosmetics have a pH of less than 6.

- USE - As a shampoo composition for improving gloss of hair and maintaining soft hair.

- ADVANTAGE - The hair cosmetics effectively improve the gloss of hair and are suitable for a shampoo composition which maintains the soft touch of hair.

- (Dwg.0/0)

IW - HAIR COSMETIC SHAMPOO COMPOSITION IMPROVE GLOSS HAIR MAINTAIN SOFT
HAIR CONTAIN MALIC ACID AROMATIC ALCOHOL ANION SURFACTANT HIGH ALCOHOL
OIL SUBSTANCE PRESET PH

IKW - HAIR COSMETIC SHAMPOO COMPOSITION IMPROVE GLOSS HAIR MAINTAIN SOFT
HAIR CONTAIN MALIC ACID AROMATIC ALCOHOL ANION SURFACTANT HIGH ALCOHOL
OIL SUBSTANCE PRESET PH

NC - 001

OPD - 2000-07-21

ORD - 2002-01-29

PAW - (KAOS) KAO CORP

TI - Hair cosmetics for use as a shampoo composition for improving gloss of hair and maintaining soft hair, contain malic acid, aromatic alcohol, anionic surfactant, higher alcohol and oil substance, and has a preset pH

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-29940
(P2002-29940A)

(43) 公開日 平成14年1月29日(2002.1.29)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード(参考)

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/075

4 C 0 8 3

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2000-220669(P2000-220669)

(22) 出願日 平成12年7月21日(2000.7.21)

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 寺崎 博幸

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 上野 正子

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(74) 代理人 100068700

弁理士 有賀 三幸 (外4名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 毛髪化粧料

(57) 【要約】

【解決手段】 (A) リンゴ酸、(B) 芳香族アルコール、(C) アニオン性界面活性剤、(D) 高級アルコール及び(E) 25℃で液状又はペースト状の油剤を含有し、pHが6以下である毛髪化粧料。

【効果】 良好な使用感触を維持しながら、毛髪のツヤを改善し特にシャンプー組成物に適する毛髪化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (A) リンゴ酸、(B) 芳香族アルコール、(C) アニオン性界面活性剤、(D) 高級アルコール及び(E) 25℃で液状又はペースト状の油剤を含有し、pHが6以下である毛髪化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、良好な使用感触を維持しながら、毛髪のツヤを改善するシャンプー組成物に適した毛髪化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】毛髪化粧料、特にシャンプー組成物は、毛髪に付着した汚れを除去する洗浄効果の他に、泡の物性を変化させて洗髪中の使用感触をよくしたり、毛髪を滑らかにして損傷を防止するために油剤等を配合している。また、洗髪及び濯ぎ時の指通り性向上のために、カチオン性高分子電解質が配合され、アニオン性界面活性剤と組合わせることにより、その複合体が形成し、毛髪表面に吸着して、指通りが滑らかとなる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これらの成分は毛髪の表面又はその近傍のキューティクルに作用させることを目的とするもので、その効果は一時的なものであって充分ではなく、また特に洗髪後の毛髪の表面のツヤも一時的なものであった。洗髪した毛髪の表面のツヤをいつまでも維持するものとして、カチオン性界面活性剤、多価アルコール、ヒドロキシプロピルセルロース等を使用した毛髪化粧料が提案されている(特許第2998027号公報)が、洗髪、濯ぎ時の使用感触が充分でないという問題があった。

【0004】本発明の目的は、使用感触を損なわずに毛髪にコンディショニング効果を付与でき、更にツヤの持続性に優れた毛髪化粧料を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、(A) リンゴ酸、(B) 芳香族アルコール、(C) アニオン性界面活性剤、(D) 高級アルコール及び(E) 25℃で液状又はペースト状の油剤を含有し、pHが6以下である毛髪化粧料を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の成分(A)は、組成中に0.1~20重量%(以下単に%と記載する)、好ましくは0.1~10%、特に0.1~5%含有するのが好ましい。

【0007】本発明の成分(B)芳香族アルコールとしては、ベンジルアルコール、ベンジルオキシエタノール等が挙げられ、ベンジルオキシエタノールが好ましい。成分(B)は組成物中に0.1~20%、好ましくは0.1~10%、特に0.1~5%含有するのが好ましい。

【0008】本発明の成分(C)アニオン性界面活性剤としては、炭素数8~18、好ましくは10~14のアルキル基又はアルケニル基を有するアニオン性界面活性剤、例えば、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル硫酸塩、アルキル(又はアルケニル)硫酸塩、オレフィンスルホン酸塩、アルカンスルホン酸塩、飽和又は不飽和の脂肪酸塩、アルキル(又はアルケニル)エーテルカルボン酸塩、 α -スルホン酸塩又はエステル、N-アシルアミノ酸型活性剤、リン酸モノ又はジエステル型活性剤、スルホコハク酸エステル等が挙げられる。

10

【0009】これらの成分(C)のうち、ポリオキシエチレン(平均付加モル数:1~5)アルキル硫酸塩、アルキル硫酸塩が泡立ちの点で好ましい。ここで塩は、アルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩、アンモニウム塩、アルカノールアミン塩又は塩基性アミノ酸塩が挙げられ、特にアルカリ金属塩が好ましい。

【0010】成分(C)は、2種以上を併用してもよく、組成物中に1.0~30%、好ましくは5~30%、特に10~30%含有するのが好ましい。

20

【0011】成分(D)高級アルコールは、炭素数12~28、好ましくは16~24のアルキル基はアルケニル基を有するもので、特に直鎖アルキル基を有するものが好ましい。成分(D)の好ましい具体的なものは、セチルアルコール、ステアシルアルコール、アラキルアルコール、ベヘニルアルコール等が挙げられ、特にセチルアルコールが好ましい。

【0012】成分(D)は、2種以上を併用してもよく、組成物中に、1.0~20%、好ましくは1.0~10%、特に1.0~5.0%含有するのが好ましい。

30

【0013】成分(E)油剤は、25℃で液状又はペースト(粘性固体)状であることを要する。成分(E)としては、流動パラフィン、ワセリン等の炭化水素類;液状ラノリン、ラノリン脂肪酸エステル等のラノリン誘導体、高級脂肪酸エステル類、ポリオキシエチレン(3モル)セチルエーテル等のポリオキシエチレン5モル以下のポリオキシエチレンアルキルエーテル;ミンクオイル、オリーブ油等の動植物性油脂類;コレステロール脂肪酸エステル、ジー、トリグリセライド類、ジメチルポリシロキサン等のシリコン油類などが挙げられる。

40

【0014】成分(E)は2種以上を併用してもよく、組成物中に0.05~10%、好ましくは0.1~5%、特に0.1~2%含有するのが好ましい。

【0015】本発明の毛髪化粧料は、毛髪に適用する際のpHが6以下の酸性であって、好ましくは3.0~6.0、特に4.5~6.0とするのが好ましい。

【0016】本発明の毛髪化粧料の形態は、液状、粉末状、ゲル状、顆粒状等に適宜選択して使用するのが、溶剤として水又は低級アルコール、好ましくは水を用いた液状のものがよい。また本発明の毛髪化粧料は、シャンプー組成物、リンスインシャンプー、トリートメント、

50

コンディショナー等浴室内で使用するもの、特にシャンプー組成物とするのが好ましい。

【0017】

【実施例】実施例1

表1のシャンプー組成物を調製して、洗髪時、濯ぎ時の滑らかさ及び毛髪のツヤ改善効果を、パネラーが洗髪して官能評価した結果を表1に併せ示す。

【0018】洗髪方法：髪を十分に濡らした後、シャンプー組成物5g又は10g（セミロング5g、ロング10g）をとり、洗髪を行った。よく濯いだ後、ドライヤーの温風で十分に乾燥させた。

【0019】官能評価

パネラー5名の次の基準に基づいた評価点の平均をとりランク分けを行った。

評価点

①泡立て時及び濯ぎ時のなめらかさ

4 非常に滑らかである

3 滑らかである

*

*2

1

0

②乾燥直後の毛髪のツヤ

4

3

2

1

0

やや滑らかである

滑らかである

滑らかさがない

顕著なツヤの改善がみられる

ツヤの改善がみられる

ややツヤの改善がみられる

ツヤの改善がない

ツヤがなくなった

平均評価点

ランク

◎

△

×

××

3.5~4.0

2.0~2.9

1.0~1.9

0.0~0.9

【0020】

【表1】

	本発明品		比較品
	1	2	1
リンゴ酸	0.5	2	0.05
ベンジルオキシエタノール	0.5	2	
ポリオキシエチレン(2)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12	10	12
セタノール	0.5	0.1	
パルミチン酸イソプロピル	0.1	0.1	
ココイルモノエタノールアミド	0.5	0.5	0.5
ラウリルアミドプロピルベタイン	4	3.5	4
ポリオキシエチレン(16)ラウリルエーテル	3	3	3
アミドアミノ酸型両性界面活性剤	1.5	0.5	1.5
カチオン化ヒドロキシエチルセルロース	0.5	0.2	0.5
プロピレングリコール400	1		
48%水酸化ナトリウム水溶液		1	
精製水	バランス	バランス	バランス
pH	5.7	5.5	6.2
洗髪時の滑らかさ	◎	◎	×
濯ぎ時の滑らかさ	◎	○	×
毛髪のツヤ(時間後)	○	◎	×

*：2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリウムベタイン

【0021】本発明のシャンプー組成物は、いずれも洗髪時、濯ぎ時も滑らかで指通りもよく、毛髪のツヤも改善され長時間に渡ってツヤを保持できた。

【0022】

※

※【発明の効果】良好な使用感触を維持しながら、毛髪のツヤを改善し特にシャンプー組成物に適する毛髪化粧料。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AB032 AC071 AC072 AC122
AC151 AC172 AC182 AC291
AC292 AC352 AC582 AC642
AC712 AC782 AD132 BB05
BB12 BB13 BB44 CC38 DD27
EE06 EE07